

「片品村 5つのゼロ宣言2050」

近年、世界中で気候変動の影響による自然災害の激甚化が顕著になっています。地球温暖化や気候変動は、異常気象や海面の上昇、生態系の変化をもたらし、私たちの身近な生活においても、河川の洪水や氾濫、集中豪雨、熱中症や感染リスクの増加、農作物の生産に影響を与えています。

2015年にCOP21(第21回国連気候変動枠組条約締約国会議)で合意されたパリ協定では、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2°Cより低く保つ目標が示されました。また、2018年に公表されたIPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)の報告では、「気温上昇を2°Cよりリスクの低い1.5°Cに抑えるためには、2050年に温室効果ガスの実質排出量をゼロにすることが必要である」とされ、2021年に開催されたCOP26では、「気温上昇を1.5°Cに抑えること」を正式に世界の目標として明記されました。合わせて日本全体においても、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、「カーボンニュートラル」や「脱炭素社会」の実現に向けた取り組みが示されました。

こうした中、自然豊かな片品村は、地球温暖化や気候変動を身近な問題として考え、地球と人が共存できる社会を次世代に引き継ぐため、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すことを宣言し、具体的な取り組みを推進していきます。

2022年2月22日 片品村長 梅澤 志洋

「片品村 5つのゼロ宣言2050」

宣言1 自然災害による死者「ゼロ」

- 片品村民の防災意識を高め、自然災害による死者をゼロにします。
- ・災害に備えたむらづくり ・避難所の総合機能強化
 - ・ハザードマップ等による村民への的確な防災情報の提供

宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」

- 片品村の豊富な水資源や森林資源を活かし、再生可能エネルギー利用を推進するとともに、温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにします。
- ・適切な森林管理と自然環境保全
 - ・再生可能エネルギーの地産地消促進
 - ・EV(乗用車やバス)、E-bike等、電動化の積極的推進

宣言3 災害時の停電「ゼロ」

- エネルギーの自立・分散化等を図り、災害時にも電力供給を継続できるようにして停電をゼロにします。
- ・電力をはじめとするエネルギー供給設備の維持管理促進
 - ・新築住宅への太陽光発電、各家庭への蓄電池等の普及促進

宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」

- 日本で初めてゴミの持ち帰り運動が始まった自然保護運動発祥の地「尾瀬国立公園」の精神を次世代に継承するため、プラスチックごみの排出量を削減します。
- ・プラスチックの使用削減、自然素材を活用した代替素材の利用促進
 - ・片品村民および片品村来訪者へのプラスチックごみ排出削減のための普及啓発促進

宣言5 食品ロス「ゼロ」

- 「MOTTAINAI(もったいない)の心で食品ロスをなくします。
- ・食品ロス削減「MOTTAINAI 運動」の展開
 - ・宿泊施設や飲食店での「残さず食べよう! 30.10 運動」の促進

